

2011 秋 広報誌

ICC Kyoto

 国立京都国際会館
Kyoto International Conference Center

▼ 巻頭言
鵬雲斎千玄室大宗匠

国際会館あの頃
財団法人千里文化財団
専務理事 湯浅叡子

会議やイベントも、
好評のうちに開催。

ちょっと気軽に、周辺散策。
湯川秀樹博士揮毫石碑
ノーベル賞受賞科学者の、
理念を想う。

巻頭言

国立京都国際会館が1966年5月に日本最初の国立の会議施設として京都に開設されました時、日本を代表する京都の文化を世界に発信する場としてアピール出来ると、私も大いに期待したものでした。それは、私の実弟である大谷巳津彦の設計による茶室「宝松庵」が設けられ、その体制がより整ったからです。

爾来、あらゆる分野の会議が多彩に開催され、人類の進歩と発展に大いに貢献してまいりました。世界が注目する地球の環境保護に取り組む京都議定書もここで生まれ、京都の名を一躍世界に高らしめたことでした。

私ども裏千家も会館と関わりが深く、私も永年役員をつとめました。開館の年の7月には日本全国から数千人の青年茶人が集う「茶道裏千家淡交会青年部第3回全国大会」

を開催し、以来、継続して同会館での開催は、昨年をもって第15回を数えました。

去る3月11日に日本を襲った「東日本大震災」では、日本人の秩序ある行動と不屈の精神が世界の人々に深い感動を与えました。世界各国の人々が日本の悲惨な状況に心を寄せ、救援の手を差し伸べてくれています。

京都国際会館でもチャリティーの催しを企画され、被災地の支援に尽力されました。

今後は「COP3、京都会議」のように重要な国際会議が京都国際会館で開催されることは勿論、5月に開催された「鎮魂と祈りの夕べ」のように、会議の会場としてだけでなく、会館独自の企画を積極的に展開される等、生き生きとしたユニークな国際会議場として益々繁栄されることを願っております。

合掌

茶道裏千家第15代家元
日本・国連親善大使
日本国 観光親善大使
日本国際連合協会会長
千 玄室



千 玄室 — プロフィール

大正12年生。哲学博士。文学博士。昭和39年千利休居士15代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成14年嫡男に家元を譲座し、千 玄室に改名。

「一盃(わん)からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。文部省社会教育審議会委員、中央教育審議会委員等の公職を歴任。

現在の主な役職は上記に加え、ハワイ大学教授、社団法人日本馬術連盟会長などがある。

文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE連邦独立勲章第1級等受章。国内外で名誉市民、名誉博士号を多数受けている。

世界平和を祈り献茶する裏千家の千玄室前家元。右奥は太平洋戦争終結の文書調印が行われた戦艦ミズーリ(米国・ハワイのアリソナメモリアル)



真珠湾で献茶 平和祈念

【ハワイ19日文化報道部 裏千家は51年、ハワイを手粟山(吉子)米国・ハワイの真珠湾にある慰霊施設アリソナメモリアルで19日午前7時半(日本時間20日午前2時7分)「日本時間20日午前7時半」で「パールハーバー」での献茶を長年望んでいたが、60年が平和祈念の献茶式を行う目録に米国海軍太平洋艦隊などの特攻隊員の経験から「」の協力で実現した。特攻隊員の経験から「」の協力で実現した。特攻隊員の経験から「」の協力で実現した。特攻隊員の経験から「」の協力で実現した。

「一盃(わん)からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。文部省社会教育審議会委員、中央教育審議会委員等の公職を歴任。

現在の主な役職は上記に加え、ハワイ大学教授、社団法人日本馬術連盟会長などがある。

文化功労者国家顕彰、文化勲章、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ、UAE連邦独立勲章第1級等受章。国内外で名誉市民、名誉博士号を多数受けている。

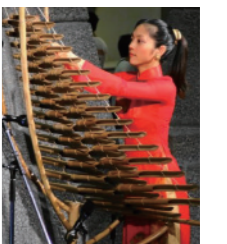
Event Report

感謝の夕べ 2011
～ベトナムの風を感じて～



2011年8月17日～18日

8月17日(水)、18日(木)の2日間、京都国際会館 開館45周年記念 真夏の祭典「感謝の夕べ2011」を開催いたしました。この催しには、山田知事、門川市長、在大阪ベトナム総領事レー・クオク・ティーン様他、両日合わせて3000名以上のお客様にお越しいただきました。ベトナムの民族楽器「トルン」の奏者、小栗久美子さんのライブ演奏やモデルによるベトナムの民族衣装「アオザイ」のファッションショー・豪華賞品が当たる大抽選会・打ち上げ花火などをお楽しみいただきました。事前イベントの「アルミ缶つぶしゲームや折り紙体験」にも多数の方にご参加いただき、有難うございました。



アルミ缶つぶしゲーム

トルン奏者

第36期囲碁名人戦 第2局

2011年9月14日～15日

朝夕秋の気配が漂う9月14日、15日、当会館の庭園の一角にある茶室「宝松庵」で第36期囲碁名人戦の第2局が行われました。3期目の防衛戦となる若き井山裕太名人に挑戦者山下敬吾本因坊を迎える囲碁界最高峰の顔合わせとあって、多くの囲碁ファンの方々が参集されました。13日に前夜祭が行われた後、対局は2日間にわたって茶室「宝松庵」で厳かに行われましたが、一般参加者は本館の「大盤解説場」でプロ棋士の解説に熱心に聞き入っていました。また両日とも指導碁やNHK BSプレミアムの解説生中継、プロ棋士たちによる検討会などが行われ、京都国際会館にとっては異色ともいえるイベントが無事終了しました。



第52回秋の宝松庵茶会 ご案内

2011年11月27日

宝松庵茶会は、昭和59(1984)年春より始まり、以来年2回(春・秋)恒例となり、今秋の第52回に至ります。洛北宝ヶ池のほとり、自然に恵まれた京都国際会館・宝松庵で、秋の清雅なひと時を、市民の皆様方にお楽しみいただければと考えております。参加申し込み等、詳細につきましては、当館のホームページでご確認ください。



国際会館あの頃

interview ①



財団法人千里文化財団専務理事 湯浅叡子氏インタビュー

【湯浅叡子氏略歴】
同志社大学英文科卒
国連協会京都本部勤務
1961年～1965年
渡米 インテリア雑誌「ハウス ビューティフル」エディター
1966年～1976年
財団法人 国立京都国際会館 館長室長
1976年～
財団法人 千里文化財団 専務理事

(館長)国際会館は、あと5年で50周年を迎えます。最初の頃のをご存知なのはもう湯浅様しかいらっしゃいません。開館したのは1966年5月、まさに45年前でした。理事長が松下幸之助さんで、高山義三京都市長が初代の館長でしたね。

(湯浅)会館は高山市長が誘致されたのです。全国で熾烈な誘致合戦がありました。

(館長)河野一郎さんと直談判して、京都にもってこられた。(湯浅)大磯の吉田茂さんのところまで押し掛けて、強引に引っ張ってきたのです。高山さんは非常に積極的でした。河野さんは神奈川県ですから、神奈川県の方々からは箱根にもってきたいと非常に強い誘致合戦がありました。ある時、神奈川県選出の代議士が大勢来て「河野さんは神奈川県出身であるのに、京都がいいと発言なさるのはけしからん」と言いに来ました。河野一郎氏曰く「私は神奈川県選出ではあるけれども、一神奈川県の代議士じゃありません。日本全国を考えているのです」と。お見事でした。高山さんは非常に強い意志と、そう思ったら猪突猛進する性格でした。吉田さんも「日本全国のことを考えれば、やはり京都だね」と言ってくださり、高山さんも大喜びでした。また岸信介総理のところにも一緒に行きました。

建設省が国費で建てた日本で初めての国際会議場ですから、分からないところからスタートしているのです。しかもあの建物自体が公募で、日本で公募をやるというのも初めてだったのです。当時国際会議場とは何であるかというコンセプトも応募した建築家たちにはありませんでした。唯一あるのは国連、ニューヨークの国連本部しか頭にないわけです。国際会議というイコール国連みたいな時代でした。大体、国際会議というイメージがなかったのです。スタートしてから、設計者に「大会議場だけで1800名入るのに300名しか座れない食堂しかないのは、どういう算術をなさったの」と聞いたら、「何と言われても、参考になる

ものは国連しかないんです」とカッカと怒られました。45年前は社会の常識がこれであって、国際会議に対する理解っていうのはそんなものでしたよ。

(館長)湯浅さんを館長室長でということですが、ニューヨークから帰って来られたばかりだったのですか？

(湯浅)私は同志社大学英文科卒なんです。国連協会が京都にできるということで、本部長になる方から、せっかく大学出たのに遊んでいるなら、ボランティアで手伝ってよと言われました。国連の人たちがどんどん東京に来ます。平日は東京で仕事をして、週末は京都に遊びに来ます。国連協会に頼んでくるんです。観光の案内をして料亭に連れてって日本料理を食べさせるといって、いわば外務省の出張所にいるようでした。英語の電話もどんどんかかってきて、経験をつんで、英語もうまくなりました。『国連京都』という新聞を出していたので、知事・市長や経済界のリーダー、大学の偉い先生方にインタビューする仕事もやりました。偉い人達と会うチャンスが沢山あって、当時の京都市長、高山さんから目をつけられたんです。国連協会に面白い女の子がいるよ、英語がペラペラなんだよ、と。そして3年ほどしたら、それを聞いた京都市の観光局長が、外国人のための観光の資料を作るとか、普段着の日本人の生活が見られるホームビジットとかのプログラムをつくらないといけないというので、スカウトされたんです。またメディアの対応もしていて、『ハウス ビューティフル』というアメリカの月刊建築雑誌が日本の美について特集したいということで編集長ら5人の方々が来たことがあります。日本の美について特集を組みたいということで、私のアイデアがきっかけとなり、「しぶい」という特集をしたら会社始まって以来の大ヒットとなり、「このスペシャルissueの扉はEiko Yuasaが開けてくれた」と書いてくれました。そうしたら、ハウス ビューティフルから日本の美について編集して欲しいからニューヨークに来いと言われたの。私は今の仕事が



楽しいからこのままでいたいと思い市長に相談したら、高山さんは「そんなこと言わないで、行っておいで。若い間に行っておいでよ。帰ってきたら京都の為にやってくれたらいいから」と言われ、ニューヨークに行くことになったの。1960年のことです。それから5年いたわけ。あちらの編集長に「日本的な美意識、例えば空間の美やイレギュラーな形の未完成の美とか、美意識を使ってアメリカのものを見るのならやります」と若いから偉そうなことを言ったの。初めからエディターとして入り、部屋を与えられ、十何年秘書をしている女性も付けていただいて。ニューヨークだし、楽しかったですよ。外国で暮らすというのは、浮き草稼業って感じがします。選挙権も持たないし、社会的責任もない気楽なものですが、でもそろそろ飽きてきて、日本にはまだないインテリアビジネスの仕事をしたくなり帰って来ました。帰ってくるなりすぐに高山さんが目をつけて「あなたが帰ってくるのを待ってたんだよ」と言われました。私は「宮仕えなんてまっぴらごめんです。役人なんて大嫌い」なんて断っていたんですが、助役さんが3度も家にいらしたり、また高山さんも「あなたがやってくれると思って、私は館長を引き受けるのだから」と言われたんです。弁護士だけあってうまいのよ。私は偉いおじさまの上手な言葉に弱いんです。自分の方からは動かないのに、向こうから勝手に来て連れて行かれ、のっぴきならない状況になっていったんです。(館長)高山初代館長の館長室長として、何が一番大変だったですか。(湯浅)当時は国際というのはまだまだ特殊な世界でした。国際というのはある種のセレブだけが関与するものだという意識がありました。国際会議場が京都にできたということは京都の知識人や一般人にとって大きな誇りでした。京

大の総長がよそから来た人に「京都に国際会議場が出来てねえ」と自慢なさる程でした。日本とは逆に、西洋社会ではマナーが求められるのは男性であって女性ではないのです。国際会議場の中は国際ルールが通用しないとはいけなし、日本であっても日本そのものが出てはいけなないので。それで日本の男性の行儀の悪さに一番困りましたね。会議の主催者も国際的なマナー、ルールをご存知なく随分エチケット講座をしました。マナーに対して価値判断を持ち込むから、日本の男性は抵抗感があるのです。これは交通信号と一緒にお願いささい、青になったら進め、赤になったら止まるという、それに意味があると思うなと言うのですが、日本の男性たちには精神的に抵抗がありましたね。(館長)その頃アメリカ人とか外国人、特に白人に対するアクセスが難しかった？

(湯浅)偉い方々の中にも白人を見ただけでビビってしまう人が多かったですね。言葉の壁だけでなく、それはありましたよ。国際社会で何が通用するのか、日本のものが駄目だとは言わないけど、国際社会ではまだまだ通じない。それを通じるようにするには国力をつけるべきであり、今は国際社会のルールにこっちが従うべきだと言っていましたね。(館長)10年間おられた。

(湯浅)高山さんが亡くなって、館長はどうしても外務省からと強く思いましたね、松下幸之助理事長にも何遍もそれを言い「何故外務省の人が必要か」という論文も書き、国際会議場の使命と深くかかわっているからと説明しました。松下さんは「よう解った。選んで連れて来なさい。あんたに任すわ」と言われましたので、京都にご縁のある人なら後宮さんだと思ったのです。京都人だし、京都弁だし、三高だし。(次号に続く)

施設部 — information

アネックスホールの音響設備がリニューアルしました。

デジタルミキサーと、音響システムプロセッサーを導入し、場内天井シーリング・スピーカおよび、アンプのリニューアルをしました。

アネックスホールの特徴である可動壁の移動により変化する音響特性を考慮し、天井面にある全36台のスピーカの音量、音質などのパラメーターを個別に設定、利用パターンに応じたパターンのプリセットとデジタルミキサーの組み合わせ、スピーカ取付位置の変更等の改修により、より均一な音環境と明瞭度の向上を実現しました。

技術課 課長 高原 琢二



数々の重要会議も、好評のうちに開催。

2011年7月23日(土)～28日(木)

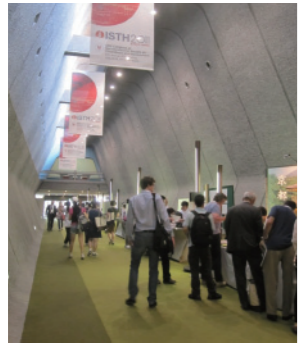
ISTH2011第23回国際血栓止血学会

7月23日～28日の6日間、池田康夫会長(早稲田大学理工学術院先進理工学部生命医科学科 教授)のもと、第23回国際血栓止血学会(ISTH2011)が開催されました。本会議は、震災の影響で一時は他国での開催が検討されましたが、組織委員会の先生方を始め、関係者及び地元京都が一丸となって予定通りの京都開催を働きかけ、開催が実現しました。



7月24日に行われた開会式では今回のために作成された3Dによるオープニング映像に続き、溝畑宏観光庁長官による参加者への歓迎スピーチが会に華を添えました。続く、Welcome Receptionでは数百発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩りました。

本会議では、世界の80の国・地域から5,000名を超える参加者を集め、6日間の会期に幕を閉じました。震災後、国内最大の国際会議となる本会議の成功が日本の復興を世界に発信する大きな意義を持ったことは間違いありません。



2011年10月2日(日)～10月4日(火)

STSフォーラム第8回年次総会

10月2日～4日の3日間、科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)の第8回年次総会が開催されました。

科学技術をめぐる諸問題を参加者がそれぞれの立場を越えて話し合うことを目的として、尾身幸次理事長が中心となり創設されたSTSフォーラムの年次総会は、2004年の設立総会以来、毎年京都で開催されています。

今回は最終日に皇太子殿下のご臨席も賜り、今までにも増した深い議論が交わされました。

次回第9回年次総会は、2012年10月7日～9日に、当会館にて開催されることが決定しています。



今後の予定



2011年12月4日(日)～12月7日(木)

第15回ILOアジア太平洋地域会議

第15回ILO(国際労働機関)アジア太平洋地域会議が、2011年12月4日から7日まで開催されます。この会議は、当初4月開催が計画されていましたが、東日本大震災の影響を受け延期されたものです。その後京都での開催に安全性などの問題がないかを、ILOジュネーブ本部、バンコクのアジア太平洋地域総局、そして日本の関係者において慎重に検討された結果、予定地での開催がILO理事会にて決定されたものです。

同会議が日本で開催されるのは、1968年以来3回目であり、域内の約44の国と地域から政府代表及び労使の代表ら約600名が参加する予定です。会議では、アジア太平洋地域におけるディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の達成のために、ILO活動に関わる課題が幅広く議論されます。

HYPERLINK "<http://www.ilo.org/global/lang--en/index.htm>"

2011年
10月～12月
催事カレンダー

開催予定会合一覧 (10月10日現在)

国際的、全国的な会合など、幅広くご利用いただいています。内容や参加人数にあわせて、会場をお選びください。

※参加者500名以上の会議
※参加者数は概数

| | | | |
|-----|--------------|--|--------|
| 10月 | 10月2日～4日 | 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第8回年次総会 | 800人 |
| | 10月6日 | 全日本トラック協会 全国業者大会 | 1,600人 |
| | 10月8日～9日 | 日本糖尿病療養指導士認定機構主催第12回受験者用講習会(平成23年度) | 500人 |
| | 10月11日 | 平成23年度京都府戦没者追悼式 | 2,000人 |
| | 10月15日～20日 | 日本睡眠学会第36回定期学術集会/Worldsleep 2011 | 2,000人 |
| | 10月29日 | 第26回国民文化祭・京都2011開会式・オープニングフェスティバル | 3,000人 |
| | 10月30日 | エキスパートナーズ・フォーラム2011 | 500人 |
| | 10月31日～11月4日 | 第12回耐火物統一国際会議 | 700人 |
| | 11月1日 | 古典の日推進フォーラム2011 | 1,800人 |
| | 11月6日 | エキスパートナーズ・フォーラム2011 | 500人 |
| 11月 | 11月10日～12日 | 第27回京都賞授賞式・記念講演会・記念ワークショップ | 5,500人 |
| | 11月13日～16日 | 第3回世界信頼性保証会議 | 1,100人 |
| | 11月19日 | パトリシア・ベナー博士講演会 | 1,000人 |
| | 11月19日 | 文部科学省iPS細胞等研究ネットワーク第3回合同シンポジウム「再生医学研究の最前線」 | 1,500人 |
| | 11月20日 | 看護国際フォーラム2011「看護実践や看護教育の現場で臨床倫理をいかに育てるか?」 | 500人 |
| | 11月20日 | 第27回京都府消防大会 | 2,000人 |
| | 11月27日 | 第52回秋の宝松庵茶会 | 600人 |
| | 11月30日～12月3日 | 第29回世界泌尿器内視鏡学会 第8回東アジア泌尿器内視鏡学会 第25回日本泌尿器内視鏡学会総会 | 1,500人 |
| | 12月4日～7日 | 第15回ILOアジア太平洋地域会議 | 700人 |
| | 12月9日～11日 | 日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会 | 600人 |
| 12月 | 12月10日～11日 | 日本糖尿病療養指導士認定機構主催第9回認定更新者用講習会(平成23年度) | 600人 |
| | 12月16日～18日 | Assistive Technology and Augmentative Communication Conference (ATAC 2011) | 800人 |
| | 12月17日～18日 | 科学・技術フェスタ in 京都 | 5,000人 |

ちょっと気軽に、
周辺散策
涼やかな大気に、
足どりも軽く。



湯川秀樹博士揮毫の「世界は一つ」石碑

1949年にノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹博士が、「世界は一つ」と揮毫した石碑です。同博士は1955年のラッセル＝アインシュタイン宣言の共同宣言者11人のひとりとして、核兵器廃絶、科学技術の平和利用に深くかかりました。この碑は1975年2月に世界連邦京都婦人の会から寄贈されました。同年8月28日～9月1日に弊館で開催された第25

回バグウオッシュ・シンポジウムの開会式に、博士は病をおして「あいさつだけは」と車いすで出席されました。



Voice

【電話交換室】

国立京都国際会館の声の玄関口として代表電話に入るお客様からの様々なお問合せに対して、常に親身に正確にお応えできるよう心掛けてスタンバイしています。



平田良子(写真左)、矢尾雅美(写真右)

編集後記

清風萬里秋。弊館ファウンダーメンバー湯浅叡子様とのインタビューをおこないました。国際という言葉そのものがセレブという揺籃期、白人に負い目を感じ払拭出来ない日本人、極めて重たい題目を精密・緻密にお話していただきました。囲碁名人戦という弊館にとってはユニークな催しが話題を集めました。秋号が出来上がりました。ご一読下さい。(広報・企画室)

編集発行 公益財団法人国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
電話 : 075-705-1234 FAX : 075-705-2367
E-mail : com@icckyo.or.jp
URL : <http://www.icckyo.or.jp/>
発行日 : 2011年10月10日